

順位	カテゴリー名
1位	がんに関する正しい認識と理解

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	研修会の開催 診断のスキルアップ	熊本市歯科医師会
2	校区イベントで保健師さんの時間を設け、PRを行った。	地域包括支援センター連絡協議会
3	・生活習慣病セミナーにて健診の必要性を啓発 ・保健師により事業所訪問にて早期発見の必要性を説明	熊本県保険者協議会
4	・熊本労働局、各労働基準監督署と連携し、がん検診を含む生活習慣病予防健診の受診 勧奨を実施。 ・40歳以上の被扶養者への受診件送付時に、熊本市のがん事情及びそれぞれのがんの特 徴や検査の受け方などが詳細に記載されたリーフレット(熊本市作成)を同封している。	全国健康保険協会熊本支部
5	28年10月に広報誌では乳がんを特集として掲載、乳がん検診の方法やがん発見率などを 紹介した。広報誌はホームページに掲載している。	日赤熊本健康管理センター
6	がんに関する情報等を研修会にて情報提供。	熊本産業保健総合支援センター
7	「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」の周知については、通 年で対応している。	熊本労働基準監督署
8	委託事業の時に啓発活動(チラシ配布)	食生活改善推進員協議会
9	各支部の例会や研修会等で啓発(パンフレットの配布)	8020健康づくりの会
10	在宅医療推進フォーラムを開催し、在宅療養支援診療所の医師より基調講演、またパネル ディスカッションにてがんの当事者からの発言を担ってもらった。このフォーラムの主旨と目 的とは異なるが、検診への勧奨に影響した可能性もある。	中央区内
11	校区のイベントに健康コーナーを設置したり、健康クイズを実施した。	北区内

2. 関係機関・団体における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・がんにに関する情報をホームページ上に掲載する ・健康講座など開催しがんにに関する知識の向上を図る【日赤熊本健康管理センター】 ・「治療と仕事の両立支援」をテーマにしたセミナー・研修会において、がんにに関する基礎知識等を含み啓発を実施。また、「非感染性疾患(NCD)の予防ーがん、循環器疾患、糖尿病、COPDー」をテーマに研修会を実施。 ・がんにに関する情報をホームページやメールマガジンにて掲載する。【熊本産業保健総合支援センター】 ・設置者・園長(研修)会等に、講師または行政関係者を招聘する。 ・関係機関及び行政からの情報(例:リーフレット等)を、協会HP・フェイスブック・ツイッター等に掲載し、より周知・拡散させる。 ・教職員研修大会等へ、講師または行政関係者を招聘する。また、関係機関または行政からの情報(例:リーフレット等)を配布する。 ・P連研修会や大会等へ、講師または行政関係者を招聘する。また、関係機関及び行政からの情報(例:リーフレット等)を配布する。【熊本市私立幼稚園・認定子ども園協会】 ・がんの当事者による講話の機会をもつ。今後の各校区のイベント、事業にて“健康まちづくり推進コーナー”を設け、より積極的に普及・啓発を行う。【中央区内】 ・医療機関やがんにに関する情報を収集し、わかりやすくパネル等にする。【南区内】
---------	--

3. 行政における主な取り組み

具体的な内容		行政(課)
1	がん征圧月間に併せ、市役所1階ロビーでがん啓発のパネル展示を行い、受動喫煙防止啓発も加えて行った。	健康づくり推進課
2	ステージごとの治癒率等のグラフを個別受診勧奨通知やチラシに掲載し、早期発見の必要性を視覚的に啓発する。	健康づくり推進課
3	中央区19校区全てにおいて、校区のイベント・健康講座、役員等の会議などの場を活用し、がんにに関する情報提供、リーフレットやクイズ・媒体を通して早期発見・早期治療の必要性についてPRを行なった。 <実施状況 19校区 34回 延べ2,036人>	中央区保健子ども課
4	・1歳半健診時(38回 延べ1,398人)及び3歳児健診時(34回 延べ1,401人)、妊産婦健康相談時(1,908人)において、熊本市のがん検診のパンフレットを配布し、啓発を行った。 ・子育てネットワーク・サークル・児童室等における健康教育、育児相談等の場で啓発を行った。	中央区保健子ども課
5	校区単位で行うイベント等での啓発 64回、延べ1,718人に実施	東区保健子ども課
6	1歳6ヶ月児健診 85回 1,944人、3歳児健診 42回 1,897人の保護者を対象にリーフレットを用いて啓発を行った。 その他、健康まちづくり推進員に対して啓発を実施。また、校区担当保健師より個別の家庭訪問、健康相談時にかんやがん検診についての情報提供を行った。	東区保健子ども課
7	各校区の健康まちづくりの組織に、学校PTAが多く参入しており、地域での啓発活動の場の提供など学校やPTAの協力が得られている(学校、PTA等への啓発 8回 344人)	西区保健子ども課
8	・幼児健診(1歳6か月児・3歳児健診)では、毎回全受診者に子宮がん検診(対象年齢の方には、乳がん検診)のリーフレットを渡して受診確認と未受診者への受診勧奨を実施。(幼児健診 74回 1545人) ・各校区の高齢者サロンや子育てサークルで、適宜情報提供を実施。(高齢者サロン 10回 229人、子育てサークル 9回154人) ・民児協、自治協、社協会議にて、適宜情報提供を実施。特に、巡回検診や集団健診の時期にあわせてタイムリーな啓発を実施した。(民協、自治協等 12回 216人)	西区保健子ども課

9	<ul style="list-style-type: none"> ・校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。(全校区で健康まちづくり部会にて検討) ・各校区の地域イベント等を捉えて啓発を実施できた。(各校区の健康まちづくり事業での啓発 11回306人) 	西区保健子ども課
10	<ul style="list-style-type: none"> ・河内だよりに「乳がん・子宮がん検診について」1回掲載。 ・各校区が作成している広報誌に、健康課題として掲載2回。 	西区保健子ども課
11	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークルでの啓発: 6校区、7回、97名に実施。 ・高齢者サロンでの啓発: 8校区、11回、244名に実施。 ・民児協や社協、自治協、子育てネットでの啓発: 20校区、43回、486名に実施。 ・地域イベント: 4校区、4回、198名に実施。 ・健康教育: 7校区、8回、379名に実施。 ・歯科活動にて、1回、4名に実施。 ・栄養士活動にて、2回、28名に実施 (内、がん検診受診率50%に向けた集中月間(10月)にて実施は4校区、4回、150名に実施) 	南区保健子ども課
12	<ul style="list-style-type: none"> ・年間通して、1歳半健診、3歳半健診にてリーフレットを配布し、母及び家族への受診勧奨を行った。 (1歳半健診: 1358名、3歳半健診: 1391名) ・南区健康いきいきフェスタ・健康づくりブースにて、がんに関するクイズコーナーやパネル、マンモモデルの展示、パンフレットの配布等を実施した。 	南区保健子ども課
13	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児健診 2,618人(通年実施) 育児サークル 13回 128人 ・保育園の保護者会 3回 45人、 学校保健委員会 1回 33人 子育て支援センター・児童館 2回 22人 ・校区イベントでの啓発パネル設置 6回 321人 	北区保健子ども課
14	月ごとの年間啓発計画を作成し、計画的に啓発を行った。	北区保健子ども課
15	がんサロンやがん関係イベントの広報	医療政策課
16	子宮頸がん予防接種の勧奨通知のときに、定期的な子宮頸がん検診の必要性を啓発していたが、H25年に国の積極的な予防接種の勧奨差し控えの通知により、中止している。	感染症対策課

H29年度は上記内容を継続して取り組む予定。

順位	カテゴリー名
2位	効果的・効率的な広報

1. 関係機関・団体における主な取り組み

具体的な内容		関係機関・団体
1	ポスター、広報誌、院内掲示	熊本市歯科医師会
2	・市ホームページ、市政だより、校区のまちづくり等を紹介 ・リーフレット、パンフレットの配布	熊本県保険者協議会
3	・「健診・保健指導のガイドブック」を作成、社会保険新規加入事業所への説明会等で配布。(がん検診を含む生活習慣病予防健診の案内) ・40歳以上の被扶養者への受診券送付時に、熊本市のがん事情及び検査の受け方などを詳細に記載したリーフレットを同封。	全国健康保険協会熊本支部
4	人間ドックでは、子宮がん・乳がん検診などはオプションとして追加するため、検査の内容などがわかるようオプションガイド冊子を作成し配布した。	日赤熊本健康管理センター
5	当センター主催のセミナーや研修会にて資料・リーフレットの配布。	熊本産業保健総合支援センター
6	◆メディア及び地域での広報	熊本市私立幼稚園・認定こども園協会
7	・熊本商工会議所会報誌『商工ひのくに』(月刊・発行部数6,500)のコーナー「情報のひろば」内に、検診・イベントなどの情報を掲載した。 ・熊本商工会議所ホームページ上で関係機関からのお知らせとして、事業所向けの広報内容を掲載した。	熊本商工会議所
8	9月の健康診断実施強化月間において、職場の定期健康診断の確実な実施について、周知を図っている。	熊本労働基準監督署
9	研修会等において啓発活動の実施(チラシやパネル等)	熊本県栄養士会
10	委託事業の時に啓発活動(チラシ配布)	食生活改善推進員協議会
11	啓発活動(パンフレットの配布)	8020健康づくりの会
12	・校区の祭りや歩け歩け大会、小学校のバザー時に健康コーナーを設け、乳がんモデル、たばこのタール、ポスター等を掲示し、チラシを配布した。 ・まちづくり委員会で保健子ども課でがん検診の受診勧奨を行った。	北区内

2. 関係機関・団体における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・健康経営推進のためのリーフレットを作成、その中で「働く世代をがんから守るために」とうたい、がん検診を含む生活習慣病予防健診を推奨している。 ・がん検診受診の重要性を事業主側に働きかけることで、実施義務のある定期健診から、生活習慣病予防健診への切替えを促す。 ・協会主催の集団健診実施時に、熊本市が実施する「郵送での大腸がん検診」の案内チラシを配布【全国健康保険協会熊本支部】 <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌での啓発 ・ポスター掲示 ・人間ドックのオプションとして受診勧奨【日赤熊本健康管理センター】 <ul style="list-style-type: none"> ・協会ホームページ・フェイスブック・ツイッター等による広報 ・協会主催キッズフェスタ等での広報 ・設置者・園長(研修)会・教職員(研修大)会等での広報 ・P連研修(大)会等での広報 ・P連広報誌等での広報【熊本市私立幼稚園・認定子ども園協会】 <ul style="list-style-type: none"> ・ツイッターやフェイスブック、ホームページを用いて情報提供をする。【南区内】
---------	--

3. 行政における主な取り組み

具体的な内容		行政(課)
1	2月にリビング新聞へ乳・子宮頸がん検診の紹介記事を掲載。	健康づくり推進課
2	平成27年度に募集したがん川柳を当課で作成したチラシ等に掲載した。また、がん川柳を掲載した啓発缶バッチをイベント等で配布し、啓発を行った。	健康づくり推進課
3	<ul style="list-style-type: none"> ・校区毎の自治協議会や民協議会、連絡会等の中で啓発子育てネット通信にがん予防の情報を記載 ・幼児検診や育児相談、妊婦相談でがん予防について啓発し、受診勧奨を実施 ・校区イベント時に啓発し、実施状況を区のホームページ等に掲載 ・区役所の窓口やコミュニティセンター等にごんに関するチラシを設置し、ポスターを掲示した。 	中央区保健子ども課
4	<p>校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会等でごんやがん検診についての情報提供を行った。</p> <p>校区単位で行ったイベント(再掲1位)64回、延 1,718人 健康まちづくりシンポジウム 1回176人</p>	東区保健子ども課
5	10月のがん征圧月間に合わせ、チラシやパネル等による広報を実施。校区の巡回健診の日程に合わせ、チラシを作成し、広報を行った。	東区保健子ども課
6	各校区の健康まちづくりの組織に、学校PTAが多く参入しており、地域での啓発活動の場の提供など学校やPTAの協力が得られている(学校、PTA等への啓発 8回 344人)【再掲1位】	西区保健子ども課

7	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児健診(1歳6か月児・3歳児健診)では、毎回全受診者に子宮がん検診(対象年齢の方には、乳がん検診)のリーフレットを渡して受診確認と未受診者への受診勧奨を実施。(幼児健診 74回 1545人) ・各校区の高齢者サロンや子育てサークルで、適宜情報提供を実施。(高齢者サロン 10回 229人、子育てサークル 9回154人) ・民児協、自治協、社協会議にて、適宜情報提供を実施。特に、巡回検診や集団健診の時期にあわせてタイムリーな啓発を実施した。(民協、自治協等 12回 216人)【再掲1位】 	西区保健子ども課
8	<ul style="list-style-type: none"> ・校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。(全校区で健康まちづくり部会にて検討) ・各校区の地域イベント等を捉えて啓発を実施できた。(各校区の健康まちづくり事業での啓発 11回306人)【再掲1位】 	西区保健子ども課
9	<ul style="list-style-type: none"> ・河内だよりに「乳がん・子宮がん検診について」1回掲載。 ・各校区が作成している広報誌に、健康課題として掲載2回。【再掲1位】 	西区保健子ども課
10	天明・飽田支所だより等でがんに関する情報発信と集団健診の案内を行った。(10月号肺がん、11月号子宮がん乳がん)	南区保健子ども課
11	40歳以上の国保被保険者に対して「特定健診とがん検診の受診方法についての詳しい説明リーフレット」と「特定健診と同日に受診できるがん検診実施機関等の一覧」を特定健診の受診券と共に個別配布(約127,000通)し周知を図った。	国保年金課
12	森都心プラザ図書館にがん検診のパンフレット等を配布した。	医療政策課
13	接種勧奨は、小学校6年相当から高校1年生相当の女性の方全員に個別通知を実施していた。 国の予防接種の副反応の情報提供、勧奨再開され次第、実施する予定。	感染症対策課

4. 行政における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等の機会に健康大使にがん検診受診を呼びかけてもらう。【健康づくり推進課】 ・まちづくりセンターと連携し、SNS等を活用したがんに関する情報を提供する。【中央区保健子ども課】
---------	--

順位	カテゴリー名
3位	がん検診の受診方法の周知

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	通常の医科のがん検診の中に、口腔内のがん検診が入っていないので、かかりつけの歯科医院で診てもらうように周知	熊本市歯科医師会
2	・熊本市ホームページ、市政だより等で紹介	熊本県保険者協議会
3	・年度初めに、35歳以上の受診対象者のいるすべての事業所あてに生活習慣病予防健診の案内を実施(子宮頸がんは20歳以上偶数年齢対象) ・40歳以上の被扶養者に対し、年度初めの受診券送付時に、集団健診でのがん検診・特定健診同時受診について案内 ・県内14市在住の被扶養者(40歳以上)に対し、がん検診・特定健診同時実施の具体的日程を掲載したダイレクトメールを送付	全国健康保険協会熊本支部
4	28年10月、29年1月の広報誌にそれぞれ健診の紹介や申込み方法など掲載している。	日赤熊本健康管理センター
5	当センター主催のセミナーや研修会にて資料・リーフレットを配布。	熊本産業保健総合支援センター
6	委託事業の時に啓発活動(チラシ配布)	食生活改善推進員協議会
7	啓発活動(パンフレットの配布)	8020健康づくりの会
8	・まちづくり委員会で、保健子ども課より周知した。 ・校区のイベントで市が作成したリーフレットを配布した。	北区内

2. 関係機関・団体における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上に掲載 ・SNSを活用して発信【日赤熊本健康管理センター】 ・ホームページ等で情報提供。【熊本産業保健総合支援センター】 ・協会ホームページ・フェイスブック・ツイッター等による広報 ・協会主催キッズフェスタ等での広報 ・設置者・園長(研修)会・教職員(研修大)会等での広報 ・P連研修(大)会等での広報 ・P連広報誌等での広報【熊本市私立幼稚園・認定子ども園協会】 ・がん検診受診可能な医療機関から資料をもらいイベントブース等でよびかける。【南区内】
---------	---

3 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	市政だよりなどによる啓発を実施した。	健康づくり推進課
2	<ul style="list-style-type: none"> ・校区毎の自治協議会や民協会議、連絡会等の中で啓発子育てネット通信にがん予防の情報を記載 ・幼児検診や育児相談、妊婦相談でがん予防について啓発し、受診勧奨を実施 ・校区イベント時に啓発し、実施状況を区のホームページ等に掲載 ・区役所の窓口やコミュニティセンター等にごんに関するチラシを設置し、ポスターを掲示した。 【再掲2位】	中央区保健子ども課
3	妊婦相談、幼児健診や家庭訪問、健康相談等で、個別に健診の受診方法を説明した。	中央区保健子ども課
4	校区単位で行うイベント等での啓発 64回、延べ1,718人に実施【再掲1位】	東区保健子ども課
5	1歳6ヶ月児健診 85回 1,944人、3歳児健診 42回 1,897人の保護者を対象にリーフレットを用いて啓発を行った。 その他、健康まちづくり推進員に対して啓発を実施。また、校区担当保健師より個別の家庭訪問、健康相談時にがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲1位】	東区保健子ども課
6	校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会等でがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲2位】 校区単位で行ったイベント(再掲1位)64回、延 1,718人 健康まちづくりシンポジウム 1回176人	東区保健子ども課
7	各校区の健康まちづくりの組織に、学校PTAが多く参入しており、地域での啓発活動の場の提供など学校やPTAの協力が得られている(学校、PTA等への啓発 8回 344人)【再掲1位】	西区保健子ども課
8	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児健診(1歳6か月児・3歳児健診)では、毎回全受診者に子宮がん検診(対象年齢の方には、乳がん検診)のリーフレットを渡して受診確認と未受診者への受診勧奨を実施。(幼児健診 74回 1545人) ・各校区の高齢者サロンや子育てサークルで、適宜情報提供を実施。(高齢者サロン 10回 229人、子育てサークル 9回154人) ・民児協、自治協、社協会議にて、適宜情報提供を実施。特に、巡回検診や集団健診の時期にあわせてタイムリーな啓発を実施した。(民協、自治協等 12回 216人)【再掲1位】 	西区保健子ども課
9	<ul style="list-style-type: none"> ・校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。(全校区で健康まちづくり部会にて検討) ・各校区の地域イベント等を捉えて啓発を実施できた。(各校区の健康まちづくり事業での啓発 11回306人)【再掲1位】 	西区保健子ども課
10	<ul style="list-style-type: none"> ・河内だよりに「乳がん・子宮がん検診について」1回掲載。 ・各校区が作成している広報誌に、健康課題として掲載2回。【再掲1位】 	西区保健子ども課
11	子育てサークル・高齢者サロン・民協・地域のイベント、幼児健診等の機会を利用して、がん検診の受診方法や近くのがん検診実施機関を周知した。	南区保健子ども課

12	受診方法を記載したチラシを作成し、配布した。	北区保健子ども課
13	40歳以上の国保被保険者に対して「特定健診とがん検診の受診方法についての詳しい説明リーフレット」と「特定健診と同日に受診できるがん検診実施機関等の一覧」を特定健診の受診券と共に個別配布(約127,000通)し周知を図った。【再掲2位】	国保年金課

4. 行政における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	・「転ママの会」や「中央区からだいいき健康フェスタ」での個別相談時にがん検診受診の周知を行う。【中央区保健子ども課】
---------	--

順位	カテゴリー名
4位	気軽に受診できる環境づくり

1. 関係機関・団体における主な取り組み

具体的な内容		関係機関・団体
1	かかりつけ歯科医院の活用	熊本市歯科医師会
2	<ul style="list-style-type: none"> ・被保険者の受診機会を増やすため、生活習慣病予防健診実施機関を拡大。28年度68機関と契約(3機関増) ・地震により阿蘇立野病院での健診が実施不可となったため、阿蘇地区での健診バスによる集団健診を実施 ・熊本市内における集団健診実施会場のうち、がん検診と特定健診のセット健診を実施する会場については、協会けんぽ加入者(40歳以上被扶養者)に対し案内文書を送付。 	全国健康保険協会熊本支部
3	がん検診の補助対象者ではない年齢の方にも希望する項目を受診していただけるよう単項目の検診(セレクト健診)を実施している。	日赤熊本健康管理センター
4	9月の定期健康診断実施強化月間において、職場の定期健康診断の確実な実施について周知を図っている。	熊本労働基準監督署

2. 関係機関・団体における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医師会とタイアップして検診日、もしくは検診週間を設ける【市歯科医師会】 ・商工会の協力を得て、会員事業所に対する生活習慣病予防健診の受診案内を依頼し、当該地区でのバス健診を実施【全国健康保険協会熊本支部】 ・特定健診と同時にがん検診の受診勧奨【日赤熊本健康管理センター】 ・教職員検診に、『がん検診』を導入する。(可能園のみ) ・教職員へ検診を推奨する。【熊本市私立幼稚園・認定子ども園協会】
---------	---

3. 行政における主な取り組み

具体的な内容		行政(課)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜がん検診を10月～11月、2月に実施した。 ・街なか健診の実施 市役所本庁にて特定健診とがん検診を実施した(12月) 肺がん(88名)、胃がん(52名)、大腸(73名)の受診。 	健康づくり推進課
2	生活習慣病対策ネットワーク連絡会の中で、特定健診及びがん検診の受診率向上、精密検査未受診者対策の取り組みについて意見交換するとともに、かかりつけ医の意見を仰ぎ、受診勧奨等の協力を依頼した。	中央区保健子ども課
3	東区管内の医療機関とのネットワーク連絡会である生活習慣病対策ネットワーク会議を健康まちづくりシンポジウムと合同で開催。	東区保健子ども課
4	地域での健康学習会や会議、育児サークル等を活用し、若い世代へも啓発を行った。	東区保健子ども課
5	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾北校区松尾北コミセンにて実施(胃、大腸、前立腺がん(オプション))H29.2.22 松尾東校区2町内公民館にて実施(肺、大腸、前立腺がん(オプション))H29.2.23 ・健康まちづくり部会の会議等で適宜情報提供を実施。 	西区保健子ども課

6	・医療機関が多い地域への働きかけ 校区単位の健康まちづくりを通して、校区の医療機関と連携を図り、がん検診受診率向上に向けた広報活動の推進を図る。	西区保健子ども課
7	・城南地区、富合校区、飽田地区、天明地区、カ合校区、日吉東校区については前年通り、特定健診と同日にがん検診も実施。検診前に、近隣校区に積極的な受診勧奨を行った	南区保健子ども課
8	生活習慣病対策ネットワーク連絡会で、特定健診受診強化月間を定め、その際のチラシに大腸がん検診についても、掲載し啓発を行った。	北区保健子ども課
9	北部地区での集団健診について、子育てサークル・所外育児相談にて周知を行った。	北区保健子ども課

4. 行政における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・土日・夜間診療時間に受診が可能な医療機関を把握し、HP等で情報提供を行う。 ・受診者の利便性を高めるため、冬季に大腸がん検診の郵送提出ができるようにする。【健康づくり推進課】 ・「けんつく会」をはじめ区内医療機関にがん検診受診に関する情報を提供しながら連携を図り、がん早期発見のための受診向上に取り組む。【中央区保健子ども課】 ・「東区健康を区民とつくるボランティア医師・歯科医師の会」との連携し、校区イベントや区民まつりなどで啓発活動を行う。【東区保健子ども課】 ・9月のがん制圧月間や日曜がん検診の時期に区のホームページやフェイスブック等で情報提供を行う。【東区保健子ども課】
---------	---

順位	カテゴリー名
5位	校区単位の健康まちづくりの展開

1. 関係機関・団体における主な取り組み

具体的な内容		関係機関・団体
1	「健康づくり」に関する研修会、イベントなどを開催し、「健康づくり」についての意識づけを行っている。	地域包括支援センター連絡協議会
2	がんに関するテーマに限らず、依頼により健康をテーマとした講師派遣・セミナーを実施したが、28年度は地震の影響もあるためか、依頼が少なかった。	日赤熊本健康管理センター
3	健康日本21リーフレットをイベント等で配置し、一般住民の方に対し啓発。「乳がんを防ぐ」等の食事とがん予防を配布。	熊本県栄養士会
4	各区毎に開催される区のイベントでパンフレット等の配布	8020健康づくりの会
5	「託麻原地域支え合いネットワーク」の会議にて保健子ども課の保健師より広報があり、メンバーにて認識を広めた。メンバーには自治協議会(自治会連合会)、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、老人クラブ連合会、託麻原子育てネットワーク等が出席。	中央区内
6	・校区のイベントに健康コーナーを設置し、がん検診の受診勧奨を行った。	北区内

2. 関係機関・団体における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・校区活動へ歯科医師会から講師派遣、校区への啓蒙をはかる配布物【市歯科医師会】 ・関係機関または行政からの情報(例:リーフレット等)を通知する。【熊本市私立幼稚園・認定子ども園協会】 ・5つの校区と行政との連携をとりながら何ができるのか検討する。【南区内】 ・高齢者サロンや子育てネット、保育園の保護者など、人の集まる機会に啓発活動を行う。【北区】
---------	---

3. 行政における主な取り組み

具体的な内容		行政(課)
1	がん検診の受診率当のデータ、がん検診パンフレット等を情報提供した。	健康づくり推進課
2	中央区19校区全てにおいて、校区のイベント・健康講座、役員等の会議などの場を活用し、がんに関する情報提供、リーフレットやクイズ・媒体を通して早期発見・早期治療の必要性についてPRを行なった。 ＜実施状況 19校区 34回 延べ2,036人＞【再掲1位】	中央区保健子ども課
3	校区単位で行うイベント等での啓発 64回、延べ1,718人に実施【再掲1位】	東区保健子ども課
4	校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会等でがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲2位】 校区単位で行ったイベント(再掲1位)64回、延 1,718人 健康まちづくりシンポジウム 1回176人	東区保健子ども課

5	健康まちづくりサポーター1、2、3期生に対してがん、がん検診等について啓発。校区単位の健康まちづくり活動の中でがん検診の広報を行った。	東区保健子ども課
6	・校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。(全校区で健康まちづくり部会にて検討) ・各校区の地域イベント等を捉えて啓発を実施できた。(各校区の健康まちづくり事業での啓発 11回306人)	西区保健子ども課
7	・地域での子育てサークル・高齢者サロン・民協・地域のイベントの機会を利用してがんに関する情報発信と受診できる日程の案内を行った。 ・南区健康いきいきフェスタ・健康づくりブースにて、がんに関するクイズコーナーやパネル、マンモモデルの展示、パンフレットの配布等を実施した。	南区保健子ども課
8	校区イベントでの啓発パネル設置 6回 321人	北区保健子ども課

4. 行政における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	・健康まちづくり等校区活動で連携している医療機関に、がん検診受診率等の情報提供を行い、受診勧奨の協力を依頼する。【南区保健子ども課】
---------	--

順位	カテゴリー名
6位	職域及び保険者との連携

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	県内各市町村の協力を得て、自治体主催の集団健診における協会けんぽ加入者の特定健診を受け入れていただいている。	全国健康保険協会熊本支部
2	<ul style="list-style-type: none"> ・がん・生活習慣病健診の実施団体へは、契約により健診後に保健師・管理栄養士を派遣して結果説明会を実施。精密検査の受診勧奨や生活習慣改善のアドバイスを行っている。(22団体) ・毎年保険者・健診担当者を対象に研修会を実施している。(29年1月24日実施) ・産業医(47団体)・保健師派遣契約(5団体)により健康相談の実施や・安全衛生委員会に参加している。 	日赤熊本健康管理センター
3	事業主及び管理監督者向けに、がんに関する基礎知識を含む「治療と就労の両立支援～がんを持つ労働者と職場へのより良い支援のために～」をテーマに研修会を実施。	熊本産業保健総合支援センター
4	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本商工会議所会報誌『商工ひのくに』(月刊・発行部数6,500)のコーナー「情報のひろば」内に、検診・イベントなどの情報を掲載した。 ・熊本商工会議所ホームページ上で関係機関からのお知らせとして、事業所向けの広報内容を掲載した。 	熊本商工会議所
5	労働安全衛生法に基き、事業主に対して健康診断実施についての行政指導を通年で実施しているほか、「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」の周知も図っている。	労働基準監督署

2. 関係機関・団体における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携を深め、総合的に取り組む【市歯科医師会】 ・治療と仕事の両立支援に対する促進員が、事業主・労働者からの相談対応や事業場に訪問しての啓発・教育や支援を実施。【熊本産業保健総合支援センター】 ・教職員検診に、『がん検診』を導入する。(可能園のみ) ・教職員へ検診を推奨する。 ・『保険者』からの最新情報等を、随時教職員へ伝える。【熊本市私立幼稚園・認定子ども園協会】
---------	---

3. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	協会けんぽ・熊本県・熊本市との三者による定期的な情報共有会議の実施。	健康づくり推進課
2	協定企業ヘリーフレット等を提供した。また、新たに1社とがん協定を締結した。	健康づくり推進課
3	出前講座の広報は未実施。出前講座1回 22人	東区保健子ども課
4	区内の企業に対し、がん検診受診勧奨のチラシを郵送した。	北区保健子ども課
5	特定健診とがん検診を同時に受診できる環境整備を図った。 H28年度:16ヶ所(H27年度+2ヶ所)	国保年金課

4. 行政における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・協会けんぽとの話し合いを実施し状況を確認する。 ・商工会の加盟店にポスターや標語の掲示をお願いする。【南区保健子ども課】
---------	--

順位	カテゴリー名
7位	未受診者への受診勧奨

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	・校区イベントを活用した受診勧奨 ・主婦検診のすすめ	熊本県保険者協議会
2	・経年的な未受診事業所に対する生活習慣病予防健診受診勧奨	全国健康保険協会熊本支部
3	熊本地震の影響で健康に不安を抱えている方や、健診未受診の方へ料金を抑えた特別コース「くまもと応援ドック」を実施。342名の受診があった。	日赤熊本健康管理センター
4	6位「職域及び保険者との連携」に記載のとおり、未受診者を認めた場合は、文書により行政指導を実施し、完全受診を図っている。	熊本労働基準監督署
5	がんの早期発見に向けて研修会等において啓発活動を行う。	熊本県栄養士会

2. 関係機関・団体における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい知識を持っていただき、早期発見、早期治療の意義を理解してもらう【市歯科医師会】 ・『検診の重要性』を、該当職員へ定期的に伝える。 ・検診時の一部補助金を支給する。(可能園のみ) ・『検診の重要性』を、P連関係者へ定期的に伝える。【熊本市私立幼稚園・認定子ども園協会】 ・健康スタンプ手帳を使用し、各種検診修了者へ何がしかの報酬を設ける。大手スーパー、コンビニ、商店街との協賛により買い物と共通のものとする。【中央区内】
---------	---

3. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	検診未受診者を含め、一定年齢到達者への受診勧奨通知を発送した。	健康づくり推進課
2	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳半健診時(38回 延べ1,398人)及び3歳児健診時(34回 延べ1,401人)、妊産婦健康相談時(1,908人)において、熊本市のがん検診のパンフレットを配布し、啓発を行った。 ・子育てネットワーク・サークル・児童室等における健康教育、育児相談等の場で啓発を行った。【再掲1位】 ・中央区19校区全てにおいて、校区のイベント・健康講座、役員等の会議などの場を活用し、がんに関する情報提供、リーフレットやクイズ・媒体を通して早期発見・早期治療の必要性についてPRを行なった。 ＜実施状況 19校区 34回 延べ2,036人＞【再掲1位】 	中央区保健子ども課
3	校区単位で行うイベント等での啓発 64回、延べ1,718人に実施【再掲1位】	東区保健子ども課
4	<ul style="list-style-type: none"> 校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会等でがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲2位】 校区単位で行ったイベント(再掲1位)64回、延 1,718人 健康まちづくりシンポジウム 1回176人 	東区保健子ども課

5	1歳6ヶ月児健診 85回 1,944人、3歳児健診 42回 1,897人の保護者を対象にリーフレットを用いて啓発を行った。 その他、健康まちづくり推進員に対して啓発を実施。また、校区担当保健師より個別の家庭訪問、健康相談時にがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲1位】	東区保健子ども課
6	アンケート調査やがんクイズ等を通して、参加住民と情報交換を行いながら、住民の意識や行動実態を把握しながら啓発活動を実施した	西区保健子ども課
7	校区イベント等で個別相談を受け、未受診の方にはリーフレット等を活用し受診の必要性や方法等を説明した。3校区、3回、59名に実施。	南区保健子ども課
8	集団健診結果説明会での周知 4回 153人	北区保健子ども課

4. 行政における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	・クーポン利用目安を対象者の誕生日で分け、その時期が過ぎた者について、再受診勧奨はがきを送付する。【健康づくり推進課】
---------	---

順位	カテゴリー名
8位	かかりつけ医をもつことの普及促進と連携

1. 関係機関・団体における主な取り組み

具体的な内容		関係機関・団体
1	かかりつけ医を持つことが、定期的にチェックしてもらえること、それが早期発見早期治療につながる事を啓蒙する。	熊本市歯科医師会
2	・人間ドックでは、保健指導・相談の際に受診者へは主治医(かかりつけ医)へ結果を見せていただくように説明を行っている。 ・精密検査に関しても、主治医がある方は必ず主治医あてとして検査をしていただくようお願いしている。 ・健診や人間ドックは経年の結果が比較できるためかかりつけ健診機関を推奨している。	日赤熊本健康管理センター
3	◆『かかりつけ医』を持つことが、早期発見・治療になることを、PTA会等で伝える。	熊本市私立幼稚園・認定こども園協会
4	高齢者サロンの健康講話等で、かかりつけ医を持つことの必要性を保健子ども課が行った。	北区内

2. 関係機関・団体における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・『かかりつけ医の重要性』を、該当職員へ定期的に伝える。 ・『かかりつけ医の重要性』を、P連関係者へ伝える。【熊本市私立幼稚園・認定子ども園協会】 ・校区のイベントや健康講座時に普及促進を行う。【北区内】
---------	--

3. 行政における主な取り組み

具体的な内容		行政(課)
1	生活習慣病対策ネットワーク連絡会の中で、医療機関と意見交換を行い、かかりつけ医による健康づくり支援や検診の受診勧奨等の協力依頼を行なった。	中央区保健子ども課
2	校区単位で行うイベント等での啓発 64回、延べ1,718人に実施【再掲1位】	東区保健子ども課
3	1歳6ヶ月児健診 85回 1,944人、3歳児健診 42回 1,897人の保護者を対象にリーフレットを用いて啓発を行った。 その他、健康まちづくり推進員に対して啓発を実施。また、校区担当保健師より個別の家庭訪問、健康相談時にがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲1位】	東区保健子ども課
4	校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会等でがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲2位】 校区単位で行ったイベント(再掲1位)64回、延 1,718人 健康まちづくりシンポジウム 1回176人	東区保健子ども課
6	健康相談や健康チェックのフォロー時に個別に実施した。	西区保健子ども課
7	生活習慣病予防ネットワーク連絡会を2月に開催。医療機関との連携を進めるために、校区保健師が通知を持参した。医師との健康課題の共有や意見交換を実施し、会議後のアンケートでは満足度が高い結果が得られた。	西区保健子ども課

8	高齢者サロン等で伝えた。	南区保健子ども課
10	啓発リーフレット等で、かかりつけ医を持つことの必要性について周知を図った。	国保年金課
11	出前講座「賢い患者になるために」(1件15名)、「在宅医療って知っていますか」(4件155名)、「あなたが望む「人生の最終段階の医療とは」」(18件507名)(合計23件677名)で、かかりつけ医を持つことの普及促進を図った。また、冊子「かかりつけ医のススメ」を、医療安全推進協議会委員に配布した。	医療政策課

4. 行政における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	・市薬剤師会に対して、市民への受診勧奨を依頼する。【健康づくり推進課】
---------	-------------------------------------

順位	カテゴリー名
9位	若い世代への教育

1. 関係機関・団体における主な取り組み

具体的な内容		関係機関・団体
1	「健康づくり」の意識づけを、イベントを通じて実施している。(例)子ども、親世代、高齢者、地域役員さんなどと一緒にウォーキング大会「江津湖歩いとランド」を開催し、その中で保健師さんの講和をしている。他の地域もウォーキング大会など実施している。	地域包括支援センター連絡協議会
2	・健康に対する関心を高めることを目的に、専用アプリ「hara凹(はらぼこ)ナビ」を無料で登録して利用できるようにしている。 ・マラソン講座(走PURO-ランプロ-)の開催や料理教室を開催し若い世代への健康意識の向上を図っている。	日赤熊本健康管理センター
3	特に女性の参加が多いので、研修会等においての啓発活動を行う。(特に女性特有のがんについては有効果と思う。)	熊本県栄養士会
4	まちづくり委員会(山本校区)を通じて、そのメンバーである保育園や小・中学校の保護者に、がん検診の受診勧奨を保健子ども課が行った。	北区内

2. 関係機関・団体における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<p>・「がん」の事ではなく、若い時から正しい知識を持ち、予防に取り組むことが大切であることを理解してもらう。また、それを啓蒙する機会を作る。</p> <p>・禁煙の励行【市歯科医師会】</p> <p>・イベントを実施する中で若い世代へがん検診の必要性をうたえるコーナーを設置する【日赤熊本健康管理センター】</p> <p>・関係機関及び行政からの情報(例:リーフレット等)を、協会HP・フェイスブック・ツイッター等に掲載し、より周知・拡散させる。</p> <p>・教職員研修大会等へ、講師または行政関係者を招聘する。</p> <p>また、関係機関または行政からの情報(例:リーフレット等)を配布する。</p> <p>・P連研修会や大会等へ、講師または行政関係者を招聘する。</p> <p>また、関係機関及び行政からの情報(例:リーフレット等)を配布する。【熊本市私立幼稚園・認定子ども園協会】</p> <p>・若者向けのがん予防啓発活動をしているところを調べる。</p> <p>・ツイッターやフェイスブックを用いて情報提供する。【南区内】</p> <p>・まちづくり委員会(山本校区)を通じて、保育園や小・中学校の保護者、若手農業就労者等に啓発をする。【北区内】</p>
---------	--

3. 行政における主な取り組み

具体的な内容		行政(課)
1	若い世代を対象としたT1フェスタにて子宮頸がん検診の啓発を行った。	健康づくり推進課
2	<p>・小中学校PTAバザーや運動会での健康相談時に普及啓発 小中学校PTAバザー 7回 444名 学校保健委員会 1校区 15名 中学生とサークルとの交流会での普及啓発 (生徒・サークル保護者対象) 4校区 10回実施 668名 子育てサークルでの普及啓発 6回 149名 民生児童委員、助産師、保健師訪問等のこんにちは赤ちゃん事業で産婦に啓発 1,483名</p> <p>・大学・短大の講義で、がん検診について普及啓発 1校 200名</p>	中央区保健子ども課

3	県立大学主催のイベント協力時にがんについて啓発(1回 50人)、その他小学校PTAのバザーや学校保健委員会、就学前健診等を活用し、若い世代や子どもを持つ親世代に啓発を実施した。	東区保健子ども課
4	臨地実習生(看護・歯科・栄養)に対して、がん、がん検診、がん予防(禁煙も含む)健康教育を実施。	東区保健子ども課
5	校区単位の健康まちづくり事業で、各校区の地域イベントに参加し、がんの啓発活動を実施できた。	西区保健子ども課
6	区役所の事業説明と同時に、がん検診の受診方法について情報提供を行った。	西区保健子ども課
7	就学時健診を利用してがんの啓発を実施した。 田迎西小学校就学時健診 保護者向け健康教育 125名	南区保健子ども課
8	保健科学大学学園祭において170名に対し啓発を実施した。	北区保健子ども課
9	実習生26名に対し、啓発を実施した。	北区保健子ども課
10	熊本市薬剤師会等と共催で実施した薬物乱用防止キャンペーンにおいて、喫煙防止に関するパネル展示や啓発品配布等の広報啓発活動を行った。(また、市役所とウエルパルにおいても、パネル展示等の市民啓発を実施した。)	医療政策課

4. 行政における上記以外のH29取り組み予定

H29取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生に向けた子宮頸がん検診の啓発を実施し、大学内での子宮頸がん集団検診の実施を検討する。【健康づくり推進課】 ・「中央区からだいきいき健康フェスタ」で小学生の保護者を対象にがんの啓発を行う。【中央区保健子ども課】
---------	---